

日 本 の 点 字

第 44 号

目 次

| | | |
|--|----------------|------|
| 点字と私 | 水谷 吉文 | … 1 |
| 『日本点字表記法 2018年版』の発行について | | 5 |
| 『数学・情報処理点字表記解説 2019年版』及び 『理科点字表記解説 2019年版』の発行について | | 6 |
| UEBの規則の改訂 | | |
| —コーテーション等の扱い | 日本点字委員会 | … 7 |
| 日本におけるのUEBの普及について | | |
| —サピエ図書館のコンテンツの状況から— | 福井 哲也 | … 9 |
| ネットオークションと点字や視覚障害者の歴史 | 岸 博実 | … 15 |
| 「点字毎日」の点字表記について | 毎日新聞社「点字毎日」編集部 | … 19 |
| 触察による情報提供施設「ふれる博物館」 | 伊藤 宣真 | … 23 |
| 国土社『手で読む 心でさわるやさしい点字』(全6巻)の 監修を終えて | 金子 昭 | … 28 |
| 2019年度研究協議会並びに第55回総会報告 | | 33 |
| 編集後記 | | 36 |

2020年6月

日 本 点 字 委 員 会

点字と私

日本点字委員会委員
天理教点字文庫 水谷 吉文 よしふみ

私が初めて点字の本を見たのは、大学の図書館で見た日本地図でした。「へえー、点字の地図はこうなっているのか」と感心したことを覚えています。点字が読めるはずもないので、点の連続で図形を表した地図に興味をもったからでしょう。その当時、私が通っていた日本福祉大学は名古屋市昭和区の「^{いりなか}杵中」にあり、地下鉄が開通するまでの3年間は、毎日バスで名古屋ライトハウスの前を通っていました。点字を習っている友人もいましたが、そのときは何の興味も持ちませんでした。誘われて名古屋の市民会館での視覚障害者のバンドの演奏会を見に行ったことがあります。奇跡的に保存していたパンフレットを見ると、現在も活動している「アンサンブル・アミー」のほか、石川県から参加したバンドのメンバーに、日点委委員の宮村健二氏の名前を見つけ、この時が最初の出会いであったのかと驚きました。

大学卒業後、昭和53年11月から、奈良県天理市の天理教教会本部・福祉課に勤めることとなります。福祉課内には「天理教点字文庫」があり、点字・録音図書の製作と貸出をおこなっていました。私の配属は点字文庫ではなかったのですが、昭和54年の春頃から、ただ何となく点字を習いだしました。そのころ点字指導者が骨折したり、体調を崩して入院する人があって、人手不足から私が人に点字を教えないといけない状況になって、初めて点字器の使い方を学習しました。

点字を習いだした時に点字器の使い方を覚えていただろうと不思議に思われるかも知れませんが、私の点字との出会いは点字を読む事からでした。点字を習いだして間もない時に、「近畿点字研究会」に行くのを誘われて、ノコノコとついていきました。研究会で出てくる資料は『改訂日本点字表記法』編纂の検討原稿で、墨字の資料はなく、点字の資料が中心でした。今は日点委の会議等でも墨字と点字と両方の資料がでるのが当然となっていますが、その時は点字の資料だけだったのですが、点字の規則を検討するのだからと妙に納得していました。検討事項の中に「五重塔」の切れ続きと数字を用いるかどうかの討議があったことを鮮明に覚えています。「そうか、点字では

こういうことが議論になるのか」と、墨字の表記と違う奥深さに感心しました。

近点研の資料を持ち帰って、皆で検討するのに墨字があった方が良いとのことから、私が墨訳する事になり、私の点字の学習は、表記法の点字を読みながら規則を覚えるという、良く言えば一石二鳥の学習でした。墨訳に下手くそな字を書くのが嫌で、活字を1つずつ拾って入力する、和文タイプライターも同時に習得しました。和文タイプライターは今は姿を消しましたが、盤面の活字を拾って文字を打つ機械で、盤面上の活字は音読みの第1音節の五十音順、予備（貯蔵）活字は部種別画数順で、ここでもまた、一石二鳥の漢字学習でした。

目で読むのに疲れない固形インクの点字雑誌を持ち帰って、点字を読む練習を良くしました。ここでも点字の勉強と盲界（最近はあまり聞かなくなりました）事情の勉強と一石二鳥でした。点字をただ読むことと、書かれていることを理解することは異なること、墨字の漢字仮名交じり文の分かり易さ、点字の数字の有効性、点字の仮名遣いでの拗音や長音符の合理性を、点字を読むことで実感しました。そんなわけで、点字器やタイプライターの使い方を覚えたのは、人に教えないといけなくなっているからでした。

近点研や日点委で、初めてあう人から、「その節はお世話になりました」とよくお礼を言われました。何のことかというところ、天理教の施設を会場に昭和52年に行われた「日点委総会」のことでした。どんなおもてなしだったのか、その当時私は学生であり、何も知りません。今でもその時のことが話題になることがあります。第11回の総会ですから、日点委草創期の委員の方は血気盛ん、『改訂日本点字表記法』大綱が決定した時ですから白熱の議論がなされた総会だったのでしょう。

大正9年3月にロート製薬創業者・山田安民氏やすたみによって奈良市に設立された私立盲啞学校の校主を、大正14年4月から、昭和6年に県に移管され奈良県立盲啞学校に改称されるまで、天理教二代真柱中山正善氏しょうぜんがつとめていました。その当時の具体的な経緯や活動等の記録を見た事がないので、残っているのかどうかもわかりませんが、当時の教団の最高責任者が、盲教育に理解があった事はうかがい知ることができます。

視覚障害者に天理教の図書个点字で作って届けようという動きは、戦後（若い人達は「戦後」という言葉の受け取り方が年配者と異なるようですが、昭和20年に終戦を迎えて後のことです）になってから活発になります。昭和23年、有志によって点訳の

手引き書が作られ、昭和24年に天理教のおつとめの地歌をまとめた『みかぐらうた』と、同年10月に発行された『天理教教典』の点字版を日本ライトハウスに製作依頼をするなど、点字図書製作の活動が奉仕者の手によって行われ、養成のための講習会も開催されます。昭和31年には月刊点字雑誌『ひかり』も創刊され、年月を重ねて、令和2年の1月号は、第741号となりました。

昭和35年、天理教点字文庫の前身となる「点字研究室」が教会本部内に設置され、点字製版機・印刷機を用いての出版も開始され、昭和42年からは録音図書の製作と貸出も始まります。昭和46年、点字図書館設立運動が実を結び、「天理教点字文庫」という名で再出発します。点字研究室という名は、点字の指導、点訳者の養成をする部署として現在も残っています。

昭和55年、日盲社協の点字図書館部会に点字指導法確立委員会が設けられ、『改訂日本点字表記法』に準拠した点訳作業に的を絞った手引き書の製作が検討されることになり、その編集作業委員として加えて頂きました。昭和55年の7月から12月にかけて4度にわたる2泊3日の委員会で、白々と夜が明けるまで検討を繰り返した受験合宿のような編集委員会で、私にとっては密度の濃い点字・点訳の勉強ができた毎日でありました。『点訳のてびき 入門編』は昭和56年3月に発行され、同年8月に第1回の点字指導員資格認定講習会が東京で開催されました。

初めて日点委の総会にオブザーバーとして参加させて頂いたのは、昭和56年に山西福祉記念会館で行われた第15回の総会の時です。近点研で討議していた「する」の切れ続きについての発言をするにあたり、総会の始まる前に木塚泰弘氏きづかやすひろにお会いして総会での発言内容の説明をしました。委員以外のものが発言することのできる日点委の懐の深さに感動というよりも、びっくりしたことを覚えています。それ以降、可能な限り総会には出席させて頂いていました。参加し始めた頃は「日点委は夜決まる」と囁かれていた時で、夜の2時を過ぎても話しが尽きない、そういう時代の真っ只中でした。前日のもめ事が、次の日には不思議に違う形でまとまっていることが、確かにありました。

昭和63年『日本点字表記法1990年版』編集委員会に加えて頂くと同時に、事務局員として日点委に参加させて頂き、平成9年からは委員として末席を汚させて頂いています。学生時代は漢字を覚えたり文字を書いたりする国語は不得意で、数学や理科の

方が好きでした。点字に出会わなければ、日本語への興味は何も持たずに過ごしていただろうと思います。

日点委が発足して54年、『むつぼしの輝きを求めて－日本点字委員会50年のあゆみ 1996～2016』が上梓されました。創立40周年記念事業としてまとめられた『資料に見る点字表記法の変遷－慶応から平成まで』と、とうやまひろく当山啓著・日本点字委員会編の『「日本点字表記法」の変遷』とあわせ見ることで、点字表記の変遷とともに、先人・先輩の方々のなみなみならぬ点字への執心をうかがい知ることができます。

日本語は漢字を取り込み、漢字からひらがな・カタカナを生みだし、数字やアルファベットを取り込み、今日では外国語をそのまま取り込んで文を構成する、たぐいまれな言語です。日本の点字にはこれからも、様々な知恵と工夫が必要になってきます。「読みよく、書きよく、わかりよく」を探求する責務が日本点字委員会に課せられ、点字に携わる全ての人々の協力が欠かせません。その一助となるべく今後も日本語と点字の勉強を続け、点字の普及につとめていきたいと考えています。

『日本点字表記法 2018年版』の発行について

日本点字委員会は、点字表記法の17年ぶりの改訂となる『日本点字表記法 2018年版』を発行しました。点字版・墨字版それぞれについて、書籍版と電子データ版があります。

■書籍版

点字版発売元 社会福祉法人日本点字図書館

価格 全3巻 7,500円

URL <https://www.nittento.or.jp/sale/sales.html>

墨字版発売元 株式会社博文館新社

価格 1,400円（本体価格）

ISBN 978-4-86115-167-5

B5判 214ページ

URL <http://www.hakubunkan.co.jp/>

※墨字版は、日本点字図書館、日本ライトハウス、京都ライトハウス、日本視覚障害者団体連合ほか、一般書店、ネット書店より、ご注文いただけます。

■電子データ版

点字データ版 … KGS社製ブレイルメモシリーズの中だけで使用可能なbmtデータ。（全3巻を1ファイルにまとめています）

点字データ版価格 1,400円

墨字データ版 … 文字検索、注釈書き込みが可能で、文字部分はスクリーンリーダーで読み上げ可能なPDFデータ。（墨点字は正しく読むとは限らない。印刷・コピーは不許可。購入者名が透かしとして入ります）

墨字データ版価格 1,000円（団体向け販売はありません）

入金確認後、メール添付等の方法で提供します。

発売元 日本点字委員会 2019年11月1日より発売

『数学・情報処理点字表記解説 2019年版』及び 『理科点字表記解説 2019年版』の発行について

『日本点字表記法 2018年版』の発行を受けて、従来あった『点字数学記号解説 暫定改訂版』及び『点字理科記号解説 暫定改訂版』の改訂版を発行しました。表記法に掲載しなくなった情報処理記号の解説を追加した内容です。

■ 『数学・情報処理点字表記解説 2019年版』

点字版 全1巻 3,500円

墨字版 1,000円（本体価格）

B5判 112ページ

2020年3月 点字版・墨字版同時発売

※墨字版 第1刷には、47ページに墨点字の乱れがありました。第1刷をお持ちのかたは、日本点字委員会ホームページから正誤表をダウンロードしてください。

（6月以降の販売分は第2刷になっています）

■ 『理科点字表記解説 2019年版』

点字版 全2巻 8,000円

墨字版 1,300円（本体価格）

B5判 120ページ

2020年6月 点字版・墨字版同時発売

※点字版の購入にあたって、公費助成を利用される場合には、日本点字図書館点字製作課にお申し込みください。点字版を定価で購入される場合には、日本点字委員会ホームページよりご注文ください。

※墨字版は、日本点字図書館、日本ライトハウスより、ご注文いただけます。

電子データ版は、点字・墨字ともに販売の予定はありません。

日本におけるUEBの普及について

— サピエ図書館のコンテンツの状況から —

近畿点字研究会 福井 哲也

(本稿は、2019年6月開催の日本点字委員会研究協議会において、近畿点字研究会から発表した内容の一部である。)

国際英語点字協議会ICEB (International Council on English Braille) の加盟各国が統一英語点字UEB (Unified English Braille) の導入を決定したことを受け、日本点字委員会は2015年9月、「日本における英語点字の表記について」と題する告知文を発表。日本においては、「英語の教科書・試験問題等」に限り2016年度から順次UEBを導入していく方針を明らかにした。

これにより、視覚特別支援学校用の英語の点字教科書は、中学部が2016年度から、高等部は2017年度から学年進行でUEB表記に切り替えられた。2018年度から使用されることになった小学部5・6年用の英語の教科書もUEB表記である。一般校に通う視覚障害生徒用の教科書も、同様にUEBへの移行が進められたものと思われる。今年度(2019年度)は、高3までの英語の教科書のほぼ全てがUEBになったはずである。

では、小中高の教科書以外の英語の図書はどうか。UEBで点訳されるものが増えていくのか。英語点訳者のUEB習得は進んでいるのか。今回は、サピエ図書館にアップロードされる点字データを切り口に、日本におけるUEBの普及状況を探ってみることにした。

1. 図書

《調査対象》

2019年4月21日現在サピエ図書館にコンテンツが登録されている点字の「図書」(逐次刊行物等を除く)のうち、点字資料種別が「英語略字あり」(2級点字)で、最終更新日が2013年4月1日から2019年3月31日までという検索条件で452タイトルを抽出。そこから実際のコンテンツが「英語略字なし」(1級点字)と判明した4タイト

ルを除いて、448タイトルを対象とした。

《調査方法》

日点委が日本でのUEBの導入方針を決定したのは、2015年6月の第51回総会においてであった。そこでまず、対象図書のうち最終更新日が2015年6月1日以降のもの256タイトルについて、最終更新日の古い順にコンテンツのBESファイルを見て、英語点字の表記が旧アメリカ式（EBAE: English Braille American Edition）かUEBかを確認した。

その結果、最初のUEBの図書は2016年8月2日にアップロード（データ更新）されたものであり、2017年3月31日までにアップロードされたUEBの図書は4タイトル、その後徐々に数が増加していることが分かった。このことから、2015年6月以前にアップロードされたタイトルは、全てEBAEの図書であると推定した。調査対象448タイトルのうち、UEBの図書は80タイトルであった。

《調査結果》

図書のアップロード時期を各年度の上期（4月1日～9月30日）と下期（10月1日～3月31日）に区切り、それぞれの時期のEBAEの図書とUEBの図書のタイトル数、総ページ数、およびアップロードした施設・団体数を集計した。その結果を表1から表3に示す。

サピエ図書館にUEBの図書が初めてアップロードされたのは2016年度上期で、以後UEBが増加していくのに対しEBAEは減少する傾向にある。2017年度下期にはタイトル数で両者は逆転し、総ページ数でも2018年度下期にはUEBがEBAEを大きく上回った。

一方、アップロードした施設・団体数の推移を見ると、この6年間で英語点字図書を手掛ける施設・団体の数に大きな変動は見られず、そのうちUEBのコンテンツをアップロードする施設・団体の数は着実に増加しているといえる。

表 1 図書のタイトル数

| | | EBAE | UEB | 合計 |
|--------|----|------|-----|----|
| 2013年度 | 上期 | 32 | 0 | 32 |
| | 下期 | 50 | 0 | 50 |
| 2014年度 | 上期 | 50 | 0 | 50 |
| | 下期 | 46 | 0 | 46 |
| 2015年度 | 上期 | 41 | 0 | 41 |
| | 下期 | 29 | 0 | 29 |
| 2016年度 | 上期 | 33 | 1 | 34 |
| | 下期 | 25 | 3 | 28 |
| 2017年度 | 上期 | 27 | 9 | 36 |
| | 下期 | 15 | 18 | 33 |
| 2018年度 | 上期 | 9 | 22 | 31 |
| | 下期 | 11 | 27 | 38 |

表 2 図書の総ページ数

| | | EBAE | UEB | 合計 |
|--------|----|--------|--------|--------|
| 2013年度 | 上期 | 12,698 | 0 | 12,698 |
| | 下期 | 21,047 | 0 | 21,047 |
| 2014年度 | 上期 | 23,913 | 0 | 23,913 |
| | 下期 | 24,167 | 0 | 24,167 |
| 2015年度 | 上期 | 21,653 | 0 | 21,653 |
| | 下期 | 13,363 | 0 | 13,363 |
| 2016年度 | 上期 | 26,959 | 46 | 27,005 |
| | 下期 | 10,783 | 1,159 | 11,942 |
| 2017年度 | 上期 | 13,200 | 2,686 | 15,886 |
| | 下期 | 6,683 | 6,774 | 13,457 |
| 2018年度 | 上期 | 7,967 | 7,012 | 14,979 |
| | 下期 | 5,922 | 10,294 | 16,216 |

表3 アップ施設・団体数

| | | 英語図書 | 内UEB図書 |
|--------|----|------|--------|
| 2013年度 | 上期 | 11 | 0 |
| | 下期 | 18 | 0 |
| 2014年度 | 上期 | 18 | 0 |
| | 下期 | 11 | 0 |
| 2015年度 | 上期 | 17 | 0 |
| | 下期 | 13 | 0 |
| 2016年度 | 上期 | 14 | 1 |
| | 下期 | 15 | 3 |
| 2017年度 | 上期 | 17 | 6 |
| | 下期 | 18 | 9 |
| 2018年度 | 上期 | 16 | 9 |
| | 下期 | 16 | 10 |

2. 逐次刊行物

《調査対象》

2019年4月28日現在サピエ図書館にコンテンツが登録されている点字の「逐次刊行物」のうち、点字資料種別が「英語略字あり」（2級点字）という検索条件で抽出。そのうち、現在も継続して点字データがアップロードされているものを対象とした。

《調査方法》

書誌情報またはコンテンツのBESファイルを見て、点字表記がEBAEかUEBか、UEBに切り替えられた時期はいつかを調べた。

《調査結果》

2019年4月現在、2級英語点字で継続的に点訳・アップロードされている逐次刊行物は9種あった。そのうち8種はNHKラジオ講座の月刊のテキストであり、1種は新

聞コラムの英語対訳版で、1月分ずつまとめてアップロードされるものである。

これらの英語点字表記の状況を表4に示す。9種のうち7種は、従来EBAEでアップロードされていたものが2016～2017年度にUEBに移行している。あとの2種は、アップロード開始のときからUEBである。すなわち、逐次刊行物のUEB移行率は100%であった。また、1種については、UEB移行後も並行してEBAEでの点訳が継続されている。

なお、2016年4月からEBAEとUEBで点訳・アップロードされてきたものの、2019年4月以降継続されていないラジオ講座のテキストが1種あった。

表4 逐次刊行物のUEB移行状況

| タイトル | アップロード | UEB移行状況 |
|------------------------|--------|---|
| 「基礎英語1」 | 奈良視福セ | 2016年4月EBAEからUEBに切り替え* |
| 「基礎英語2」 | 埼点研 | 2016年4月EBAEからUEBに切り替え* |
| 「基礎英語3」 | 福岡社協 | 2017年4月EBAEからUEBに切り替え |
| 「ラジオ英会話」 | 福岡社協 | 2017年10月EBAEからUEBに切り替え (2017年10月～2018年3月はEBAEでも点訳) |
| 「英会話タイムトライアル」 | 福岡社協 | 2017年4月EBAEからUEBに切り替え |
| 「実践ビジネス英語」 | 奈良視福セ | 2016年4月からそれまでのEBAEに加え UEBでも点訳 |
| 「Enjoy Simple English」 | 埼点研 | UEBで2016年4月開始 |
| 「遠山顕の英会話楽習」 | 福岡社協 | UEBで2019年4月開始 |
| 「和英対訳・天声人語」 | 埼点研 | 2016年4月EBAEからUEBに切り替え |

〔注〕 アップロード施設・団体の略記は次のとおり。

埼点研：埼玉県点訳研究会

奈良視福セ：奈良県視覚障害者福祉センター（点訳は「青垣会」）

福岡社協：福岡市社会福祉協議会（点訳は「点訳サークルL. B. C.」）

* を付したものは2級と1級の両方で点訳・アップロードされている。

3. まとめと今後の課題

2016年に「英語の教科書・試験問題等」にUEBの導入が始まって3年。サピエ図書館にアップロードされる2級英語点字のコンテンツに占めるUEBの割合は増加している。「図書」については、2018年度下期において、タイトル数の71%、総ページ数の63%がUEBであり、2級英語の図書をアップロードした16の施設・団体のうち10がUEBの図書をアップロードした。また、「逐次刊行物」については、2019年4月時点でアップロード継続中の9種全てがUEBであった。このようにUEBが普及してきたことは、関係者の努力の結果にほかならない。

しかし、現在サピエ図書館に登録されている「英語略字あり」の「図書」約1600タイトルのうち、UEBの図書は僅か80タイトル余りしかない。今高校3年以下の「UEB世代」にとって、サピエ図書館に蓄積されている英語の図書のほとんどは活用できないのだ。英語点訳に携わる方々のさらなるご支援に期待するしかないが、今後UEBの図書の増加がどのようなペースで進むのか、注意深く見守る必要がある。

一方、日本の点字使用者の大半はUEBを知らない。英語と無縁の暮らしをしている人にとって、それはなんの問題もないことだが、大学生や社会人になってからも、英語を学びたい、あるいは英語を読む必要のある人たちが一定数いるはずである。その「UEBを知らない世代」に対し、私たちはEBAEの図書・資料をできるだけ長く提供し続ける努力をすべきなのか。それとも、英語を必要とする点字使用者には、年齢を問わず、早期にUEBに慣れてもらうような環境作りをすべきなのか。私は後者がより重要と考える。

UEBは英語圏の人たちによって考案され、導入された。それが非英語圏の私たちにとってプラスなのかマイナスなのかは分からない。しかし時代は動いた。日本において、英語点字表記が二重に存在する状態は、まだ5年、10年は続いていくだろう。この「過渡期」をいかにスムーズに乗り切っていくかが、私たちに課せられた課題といえる。

ネットオークションと点字や視覚障害者の歴史

日本盲教育史研究会 事務局長 岸 ^{ひろみ}博実

私は、自称「ヤフオク歴史研究家」です。ヤフオクは、インターネット上のオークションサイトの一つとして有名です。いえ、ヤフオクの歴史を研究しているわけではありません。実は、点字や盲教育史の研究に役立つ資料がヤフオクに出品されることが時折あるのです。案外に重要・稀少な（と私には思える）品を入手する喜びも重ねてきました。もちろん収集のすべてをヤフオクに依存しているわけではなく、図書館・資料館・古書店などが欠かせないのですが、自分がある程度において「ヤフオク頼みの点字・盲教育史研究」になっていると、認めざるをえません（笑）。

この話は、本音でいえば、あまり広めたくないのです。オークションの競争相手が増えることにつながるかもしれないからです。お手柔らかなと、お願いしつついくつかのエピソードをご紹介します。ぜひ。

2019年10月15日は、悔しい一夜となりました。オークションにノミネートされていた「京都盲啞院 院友会結成満十周年紀年 絵葉書」が、知らない誰かによって2万2千円という高値で落札されたのです。院友会は、京都盲啞院に在籍していた耳の不自由な生徒による組織の名です。京都府立盲学校の資料室には無い品だったので、途中まで参戦してみたのですが、予想外の高騰に耐えきれず、競り負けてしまいました。その絵葉書は、2018年10月末の「京都盲啞院関係資料」の重要文化財指定に加えられてもよかったレベルの貴重品でしたので、非常に悔しかったのですが、個人の営みの限界を痛感させられました。せめて、それが人知れず死蔵されるのではなく、歴史研究の場に公開され活用されるよう願うばかりです。

以下には、首尾よく落札に至ったケースをかいつまんでおきましょう。

2020年に入って最初の成果は、1931（昭和6）年版の「京都府立盲学校概覧」（墨字・B5・1枚）とそれに添えられた「点字一覧表」を廉価でゲットしたことです。1889年以来、京都市立に位置づけられてきた盲学校（1925年までは盲啞院）が府立へと回帰した年の印刷物です。この「概覧」はこれまで未知の一次資料であり、添付の

点字一覧表も珍しい逸品でした。

2019年夏には、京都府立盲学校同窓会が1934年に作成した『販売品型録』（墨字・B6・正味10ページと目次等）を手に入れることができました。100円からスタートしたのに、競争相手が現れて値上りしてしまいましたが、なんとか私のキャパに収まりました。

内容は、同窓会が行っている事業（「盲人文化用具」製作販売や「図書編纂・出版」など）を箇条書きで掲げ、点字の製版機・盲人用将棋盤、ローラー印刷機、アイデアルブレユライター・盲人用算盤、点図製作器、点字初歩練習器などを各ページに配して、写真と性能・価格を記すパンフレットです。アイデアルブレユライターは、京都府立盲学校同窓会が1930年に製造販売した国産第一号のコンパクトな点字タイプライターの商品名です。点消器は、点消台・点消パンチ・ハンマーをセットにしたもので、亜鉛原版の修正に用いたもののようです。巻末の出版図書目録には、墨字ノ部4点（日本盲教育史や盲教育代数学など）、点字ノ部31点（経穴学解説、訓盲楽譜、エスペラント講習読本、ルイ・ブラーユ伝、普選ノ話など）が列挙されています。同窓会が点字などの普及を通して、視覚障害者文化の向上を計り、社会の改革にむけて尽力した「京盲スピリッツ」をうかがうことができます。

同じ年の1月には、日本点字図書館の本間^{ほんまかずお}一夫さんがお書きになった「点訳通信」（点字版）を獲得することができました。「点訳通信」は、本間館長が点訳者に宛ててお送りになった随感と連絡の通信で、日本点字図書館から「忘れ残りの通信集」として刊行されていますので、お読みになったかたも多いでしょう。このとき、私の手元に届いた点字版「点訳通信」綴りには、第5信、第6信、第7信、第8信、第9信、第10信、第11信、第12信、第13信、第14信、第15信、第16信、第17信、第18信、第19信、第20信、第21信、第22信、第23信、第24信、第25信、第26信、第27信、第28信、第37信が、手作りの厚紙表紙に挟んでありました。このうち、第5信、第6信、第7信、第8信、第9信、第10信、第12信は「忘れ残りの通信集」に未収録のようです。しかも、第7信には二種があります。出品した業者に問い合わせてみましたが、来歴はたどることができませんでした。これは私（ひそ）かに蔵すべきものではなく、また2020年が日本点字図書館創立80周年にあたりと伺いましたので、田中^{てつじ}徹二理事長宛に一括送付したところです。

私なりに「忘れ残りの通信集」に未収録の分に関する墨字訳は済ませました。その精査は同館にお願いしてあるのですが、第6信のごく一部分、点訳事業の進捗ぶりをめぐる本間館長の実感が印象的でしたので、抄出してみましょう。(／は行替え)

このごろ てんやくしょの ゴーかが とくに めだって／ まいりました
まいにち にしから ひがしから とどけられる／ とーとい てんやくしょを
まさぐりながら これに よって／ なぐさめられ はげまされる たくさんの
もーじんの／しあわせを しみじみと おもいます わたくし じしん／
どれを よむべきか まよわざるを えません すくなくも／ きょーまでの
にっぽんに おいて わたくしほど どくしょ／の じゅーを ゆるされた
もーじんわ ないで ありましょー／ じかんに かぎり あるを なげくのみ
「もーじんも／ てんじの ほんに むかう ときだけわ めが あく」との／
この うんどーの だいおんじん ごとー せいこー／ せんせいの おことばわ
たしかに しげんで あります

本間一夫さんの、点字と点訳と点訳ボランティアに向けた思いの熱さ・深さに近づく一助になれば幸いです。

この他、この10年ほどの間に、日本のオークションサイトからもたらされたものが少なくありません。京都盲啞院が誕生した頃の京都府知事・榎村正直まきむらまさなおによる歌「とひも えず みも えぬ みをも なげかじな をしへの みちの あきらけきよは」(問いも得ず見も得ぬ身をも嘆かじな教えの道の明らけき世は)を墨字・点字で印刷した『訓盲点字例』と題する葉書。ヘレン・ケラー学院で学んだ持ち主が愛用していたと思われる木製の点字器。関西地方に住んだと推測される邦楽の世界で生きた無名の人による「点字日記」(厚さ30センチほど!)

戦時中に各地にあった失明軍人寮の絵葉書、失明軍人に陸・海軍大臣が送った杖、鉄機爆音集レコードセット、紙芝居「盲導犬」。これらは、私のもう一つのテーマである「戦時下の盲学校・視覚障害者の体験」を掘り起こす作業の素材にも推進力にもなってくれた品々です。戦争体験者から直接お話を伺うことが難しくなるにつれ、戦時研究には「遺跡」や「モノ」が重みを増しつつあります。モノを「利益を生む商品」として扱う動きは気にもなります。大事な資料がオークション経由で散逸する面もあ

りますから。先に記した「院友会」資料のようなモノを確保・活用するための財源・対策をどう考えればよいのでしょうか。

最近、やはりインターネット上にある国際的なオークションにも、無理のない範囲で、おずおずと手を広げてみています。「ニューヨークポイント」、「ムーンタイプ」の書籍、レイ・ブライユの伝記や切手など。小西信八こにしのぶはちと石川倉次いしかわくらじなどに日本の点字を研究する手がかりを与えたトーマス・アーミテージによる手書きとされる短信もつい近ごろ届きました。

これらをゆっくり撫でてみると、アーミテージが語り、鳥居篤治郎とりいとくじろうが広げた「点字良心」という言葉が浮かんできます。

「点字毎日」の点字表記について

毎日新聞社「点字毎日」編集部

2018年11月1日に「日本点字表記法 2018年版」が発行されました。「点字毎日」（点毎）でも、創刊100年という節目を前に、そして令和という新たな時代を迎え、従来の表記を見直すことを計画しました。

2019年の新春号の紙面で、読者の意見を募るアンケートを実施したところ、表記の見直しを求める声を多数いただきました。そこで点毎の点字表記は、2019年（平成31年）4月28日・2019年（令和元年）5月5日合併号から、新たな規則に基づくものになっています。主な内容をご紹介します。

1. サ変動詞「する」の前のマスあけについて

従来、点毎の紙面では、「する」の前は原則として、マスあけしていませんでした。マスあけするのは、

- (1) 「早く□する」や「はっきり□する」といった副詞に続く「する」
- (2) 「大きく□する」や「高く□する」といった形容詞に続く「する」
- (3) 「情報□提供□する」や「無料□配布□する」「有効□活用□する」「自己□紹介□する」「ダウン□ロード□する」「シャット□アウト□する」「ピック□アップ□する」のように、内部にマスあけのある複合名詞に続く「する」

に限っていました。また、行末に入りきらない場合、「する」から次の行に移すことがありました。しかし、サ変動詞の「する」は、マスあけしていませんでした。

こうした表記は、「日本点字表記法 2001年版」とは異なりませんでした。しかし、サ変動詞の「する」の前をマスあけするのは、既に一般的になっています。さらに若い世代では、「表記法 2018年版」が発行され、違和感を感じる点字使用者も増えているため、変更を決めました。

2. 読点について

点毎の記事は原則、既存の文章を点訳するものではなく、記者によるオリジナルの文章です。読点を使わずとも意味が取りやすくなるように工夫して書くように心がけています。そのため、読点は使わないことを原則にしています。ただし、毎日新聞本紙の記事をリライトする場合のほか、イベント告知欄の「情報フォーラム」や「スポーツ」などの記事では、意味を取りやすくするために例外的に読点を使うことにしました。以下、毎日新聞の「表記の原則」から、読点使用の事例を挙げながら、点毎で読点を使う可能性がある場合について説明します。

(1) 文の切れ目に打つ

点毎では使いません。

[例] 昨日は暖かかったが、今日は随分と冷える。

(2) 対等に語句を並べる場合に打つ

点毎では、一部で読点を使う場合があります。

以下の「例1」のケースではマスあけで対応します。「例2」のケースでは従来、2マスあけて言葉を並べていました。しかし、行末にきた場合に文意が明確にならない場合があるため、ケースによっては読点を使うこともあります。

[例1] 金も、地位も、家もない。

[例2] 政治、経済、社会、科学。

(「社会」と「科学」の間に読点がなかった場合「社会科学」との区別がつかないことがあります)

(3) 難読、誤読を避けるため使う

点毎では使いません。

[例1] 今日こそ、そばを食べよう。

(墨字では、「こそ」の次に「そば」と、平仮名が並ぶと読みにくいために、間に読点を打ちます)

[例2] 2、3日のうち。

(墨字の場合、「2」と「3」の間に読点がなければ「23」となるための読点です)

[例3] 審議会委員、長谷川四郎

(「審議会委員・長谷川四郎」と中点を使う場合もあります。墨字では漢字が並ぶため、切れ目を分かりやすくする目的で読点や中点を使いますが、点字ではマスあけで区切りが分かりますので不要です)

(4) 文の構造を分かりやすくするために打つ
点毎では、一部で読点を使う場合があります。

① 節と節の間に打つ

→ 点毎では原則、使いません。

[例] 彼も喜び、私も喜んだ。

② 前置きの節や語句を区切る

→ 点毎では、読点があった方が分かりやすい時は、使う場合があります。

[例] その夜、あなたはいなかった。

③ 挿入された節や語句を区切る

→ 点毎でも使う場合があります。

[例] 私はそんなことは、前にも言ったように、していない。

④ 主語を明確にするために打つ

→ 点毎では、読点があった方が分かりやすい時は、使う場合があります。

[例] 私は、彼はそんなことはしないと思う。

⑤ 修飾する語とされる語の関係を明確にするために打つ

→ 点毎でも使う場合があります。

[例1] 私は、熱心に働く人を探す。

[例2] 私は熱心に、働く人を探す。

3. 点毎独自の点字表記

- ・マスあけをしない言葉に、次のような事例があります。

[例] ○○学者、○○楽団、○○学部、○○局長、車いす、心意気、ごま油、
自衛隊員、消費税率、大学院生、図書館長、みそラーメン、幼稚園長

- ・次のカタカナ語は、一続きに書きます。

[例] インターナショナル、インターネット、ネットワーク

- ・区切ると意味が変わる語は、一続きに書きます。

[例] グレープフルーツ、ペパーミント、ローズマリー

- ・一般的にマスあけされている国名を示す「ランド」の前は、マスあけしません。
ただし、普通名詞や施設名などを示す「ランド」の前はマスあけします。

[例1] アイスランド、グリーンランド、スコットランド

[例2] ディズニー□ランド、読売□ランド、レジャー□ランド

- ・企業名などで一続きに書くものもあります。

[例] ソフトバンク、タカラトミー、マイクロソフト

点毎では今後も、「日本点字表記法」はもとより、各方面の点字表記の動向も注視しながら、読者の声を踏まえ、点字新聞独自の「読みやすく分かりやすい」点字表記を考えていきます。

触察による情報提供施設「ふれる博物館」

日本点字図書館 本部長 伊藤 宣真のぶざね

■ 準備まで

平成17年春、地元の資産家池田輝子いけだてるこさん所有の13階建てマンション「アイブライト」が高田馬場2丁目に完成し、その2階の事務室2間分を借りて（平成22年当館に寄贈）分館と称し、当館の事業の一部を移した。施工段階から2階部分は当館が関わり、2間の境をとり1間としたほか、廊下では、床と壁の明度差、ドアと壁の色彩の違い、目の高さにある点字付きの部屋の表示、トイレ前の点字ブロックなど、見えない見えにくい人に対応した内装を施した。実施事業は当初のUD推進室から電子図書制作室に代わったが、都合により平成28年に当該業務を本館に移し、その後の活用を模索した。

遡ること2年、平成26年、国立特殊教育総合研究所（現 特別支援教育総合研究所）を前年に退官された大内進おおうちすすむ先生が、「アイブライト」から徒歩10分の西早稲田に、「手と目で見える教材ライブラリー」（以下、ライブラリーという。）を開設していた。今までの研究から、触察による学習に寄与するために私財を投じて開設したものだが、常時開館ではなく先生が対応できる時間を予約して訪問する完全予約制で実施されている。

それを受け、空いた分館に現在の業務の一部を移すのではなく、新規事業を立ち上げてはどうか。大内先生の協力を得て、常設で予約なく入れる触るミュージアムはできないかと職員の和田勉つとむから発案があり、大内先生に打診したところ快く引き受けていただき、共催という形で実施することが決まった。平成30年4月1日オープンをめざし、平成29年より開設の準備を始めた。準備は元当館館長の小野俊己としみが担当し、内装工事等を行い、10月6日、当館創立者本間一夫の誕生日にプレオープンした。当館所蔵の古い盲人用具の中から点字タイプライターの紹介と、常設とする大内先生所蔵の「最後の晚餐」の石膏レリーフ、そしてライブラリーから模型を借りた企画展、「日

本の城」という内容であった。週2日、金曜・土曜の開館であったが好評をもって迎えられ、この新規事業に手ごたえを感じた。

■ 正式オープンから現在まで

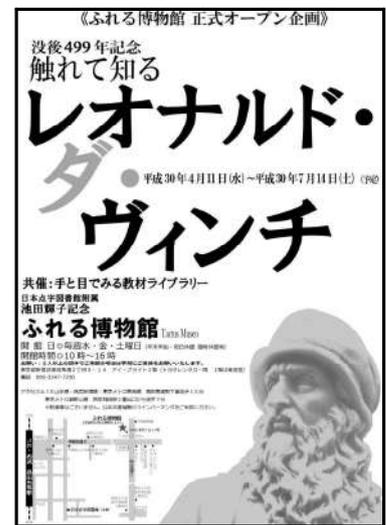
平成30年4月に正式オープンし、週3日、水曜・金曜・土曜を開館とした。

オープン企画は「触れて知る レオナルド・ダ・ヴィンチ」。常設展示の「最後の晚餐」のほかにライブラリーから「モナ・リザ」の石膏レリーフ、レオナルドの素描から製品化した戦車、ヘリコプター等の発明品のプラスチックモデル、レオナルド自身の胸像をお借りして展示した。

4月から7月まで43日間開館し、来館は372人。

第2回企画展は「宇宙をさわる」。ライブラリーからは「サターン5型ロケットとアポロ13号」、「はやぶさ」などの精巧な市販模型や反射望遠鏡とその仕組みを説明する先生手作りの模型などをお借りした。また、国立天文台のうすだ さとう くみこ臼田-佐藤 功美子さんのご協力をいただき、太陽と惑星の大きさ比較ができるキットや、すばる望遠鏡、イトカワ、地球、火星、会期終盤には、最新データによるリュウグウの3D模型をお借りした。また太陽系惑星の距離を体感する方法もご指導いただき、充実した企画展示ができた。なおかつ特筆すべきは、臼田さんには天文に詳しいボランティア、もと中学校教諭の大越治さんをご紹介いただき、週1回ではあるが詳しく知りたい来館者のニーズに対応できた。

テーマに沿ったワークショップも試みた。臼田さんの体



験型講演会を本館で、京都大学大学院教授の^{みねしげしん}嶺重慎先生による点図を用いたワークショップを「ふれる博物館」で実施した。8月から12月まで56日開館し、来館者は545人。

当初より、「ふれる博物館」ならではの展示物を制作する話があり、石橋財団の助成を得て、ルイ・ブライユの生家と日本点字図書館の建築模型制作を十川造形工房に依頼していたのが、年末に完成し納品された。平成31年1月、それを一つの柱に、都内の有名建築物の展示を行ったのが、第3回企画展「ルイ・ブライユの生家と指で巡る東京名所観光」だった。ルイ・ブライユの生家は現地の協力の下、寸法図と多数の写真を送っていただき、趣のある建物に仕上がった。屋根と東西の外壁をはずすことができ、各部屋を指で確認できるものである。日本点字図書館の模型は、ファサードの鎖の感触を再現し、各フロアは重箱のように取り外せ、間取りだけでなく、廊下の手すり、床の点字ブロック、便器も再現した精巧な作りになっている。

ライブラリーからは、東京駅丸の内駅舎、雷門、東京タワー、スカイツリー等をお借りした。東京観光ということから、株式会社はとバスに協力を依頼し、現役バスガイドさんによる各建物にまつわる説明を収録、会場で聴いていただいた。

また、いながらの耳で聴く東京観光を本館で実施した。東京駅を出発して皇居、霞が関、東京タワー、お台場、豊洲、銀座を経て東京駅に戻る実際の1時間コースをバスガイドさんに生で解説していただき、好評を博した。

1月から5月まで45日開館し、来館者は783人。

第4回企画展は6月から9月の夏場期間となった。そこで夏休みを利用して、晴眼の子どもを呼び込もうと、「ルイ・ブライユとさわって学べる点字の世界」を実施した。ヤフーキッズの人物検索では4年連続1位（その後5年連続となる）のルイ・ブライ



ユの胸像や、筑波大学附属視覚特別支援学校のご協力を得て製作した点字以前に考えられていた視覚障害者用の文字のレプリカ、また点字盤や点字タイプライターも展示した。手ごたえ、音が楽しいのか、子どもたちには点字タイプライターが好評であった。6行書き定規で点字を書く体験コーナー、関連図書コーナーも作り点字図書・『テルミ』なども置いて、点字のPRを行った。

企画に合わせ、本館では晴眼の小学生対象の点字教室を実施。小学生相手の講師経験が豊富な「点訳きつつき」代表の齊藤宮子^{さいとうみやこ}さんに講師をお願いし、成功をおさめた。

6月から9月まで40日開館し、来館者は641人。



第5回企画展は、ライブラリーの所蔵品の中でも数が多い「車」の展示を検討した。いろいろな切り口があるが、今回はテーマを絞って「さわって確認! “働くクルマ”」とした。ライブラリーの模型だけでなくタカラトミーからトミカのミニカーをお借りし、また株式会社ブリヂストンの協力により巨大タイヤの模型パネルも製作した。会期終盤は新型コロナウイルスの影響で開館を続けるか危ぶまれたが、何とか3月14日の終了まで乗り切り、来場者には感謝をされた。

10月から令和2年3月まで58日間開館し、来館者は538人。



第6回企画展は、当初、今年東京で開催予定であったオリンピック、パラリンピックにちなんだ展示会を企画していたが、新型コロナウイルスの影響でそれらが来年に延期になったことから、急遽変更。今年は当館創立80周年であることから、それにち

なみ「日本点字図書館と触図の試み」と題し、当館が製作した触図の数々を中心に、点訳書から施設構内図、屋外設置の触知案内図などを紹介する。併せて触図製作の先駆者、故 ^{ごとうりょういち}後藤良一氏のコーナーを設け業績を紹介したい。会期は7月15日から9月30日まで、新型コロナウイルス感染防止対策のため、密にならないよう事前予約制で実施している。



■ 今後について

第2回目から展示企画に関わる施設、団体、企業にご協力をお願いしているが、それぞれ「ふれる博物館」の趣旨をご理解いただき、好意的に受け止めて下さっており、それがまた、社会に視覚障害者の世界を知ってもらうきっかけにもなるので、今後も続けていきたいと考えている。来場者も、視覚障害者と家族、関係団体だけでなく、美術館、博物館、水族館、また企業の方も、視覚障害者へのアプローチのヒントにと来館してくださっており、今後の広がりを期待している。事実、第2回企画展にご来館いただいた明石市立天文科学館では、10月から12月にかけて「ユニバーサルデザイン展～やさしい天文展示～」を開催した。

予算も無く、手作りの、決して完璧ではない展示ではあるが、視覚障害者に未知の体験をしていただきたいという思いで、これからもスタッフ一同アイデアを出しながら様々な企画展示を実施したい。

国土社『手で読む 心でさわるやさしい点字』 (全6巻)の監修を終えて

日本点字委員会 副会長 金子 昭

日点委ではこのたび、国土社『手で読む 心でさわるやさしい点字』(全6巻)の監修をお引き受けした。対象は小学校中学年から中学生とのこと。各巻には、実際に点字にさわって学べる点字シートが付いている。このシートには、短くても何か文例があるとよかったと思う。

本書の監修にかかわった一人として、各巻の内容紹介と感想を述べさせていただきたい。

(1) 点字を読んでみよう

点字のしくみやきまりを紹介し、五十音からアルファベットや数字まで、基本的な点字の読み方を学ぶようになっている。母音に子音を付加したときの「かろく、さごろく、たさんご、なさん…」なども覚えるときに便利であろう。

マスあけについては、《意味のまとまりごとに一マスあける「分かち書き」。ことばの間に「ね」や「さ」を入れてみると、分けやすくなるんだよ。「ワタシワ□アカイ□ハナガ□スキデス。》とあり、複合語の切れ続きについては《一つの意味のまとまりであっても、「カレー□ライス」「フライド□ポテト」などの長いことばは、一マスあけることがあります》とある。分かち書きと切れ続きについて、いかにも説明が不足していると思うが、限られたスペースでは、これが限界だろう。「指先でさわる理由」にもふれている。

目次：点字って、なに？／点字って、どう読むの？／点字のしくみをおぼえよう／五十音の読みかた／なにが書いてあるのかな？／二マスであらわす字／この点字、読めるかな？／数字を読んでみよう／アルファベットを読んでみよう など

(2) 点字を書いてみよう

第1巻で学んだ点字を復習したのち、示された墨字文、あるいは自分のことを凸面の墨点字で書く。「点訳にチャレンジ」では60字程度の漢字仮名交じり文があり、それを点訳するようになっている。すべて練習文の下にある、6点の付いた枠に鉛筆で書くようになっている。

「点字を書く道具」では、その一つとして凸面から書く点字器（トツテンくん）が紹介されている。新しい試みだと思う。筆者も見える学習者に点字を指導していて、読みの学習から、書きに移るとき、形が逆転することに混乱している人を多く見る。一つの選択肢として凸面点字器が考えられてもよいと思う。

目次：五十音を思い出そう／五十音を書いてみよう／二マスであらわす字も思い出そう／いろいろなことばを書いてみよう／名前を書いてみよう／自分のことを紹介してみよう／自己紹介カードをつくろう／手紙を書いてみよう／ひみつの手紙を出してみよう／点字の決まりを復習しよう／点字を書く道具／点訳のポイントをおさえよう／点訳にチャレンジしてみよう／答えをたしかめよう

(3) 点字をさがしてみよう

身の回りの点字、および見えない人にとって便利なものを紹介している。「点字じゃないけど役立つふう」として、牛乳パックの切り欠き、点字ブロック、音響案内・音声案内など多くのものが紹介されている。

目次：家の中の点字をさがしてみよう！／家のこんなところに点字があった！／家の中の点字のひみつ／まちの中の点字をさがしてみよう！／まちのこんなところに点字があった！／まちの中にある点字のひみつ／駅の中の点字をさがしてみよう！／駅のこんなところに点字があった！／答えをたしかめよう／点字じゃないけど役立つふう など

(4) 点字をささえる人

社会には見えない人の不自由さを助けるために、多くの点字を支える人たちがおられる。そうした方々へのインタビューによって構成されている。登場される方々のお名前と、点字についての思いの伝わる一言を引用させていただく。日点委関係者では

事務局員の奥野真里さんと、2020年度から委員になられた渡邊寛子さんが紹介されている。

- ① 点訳ボランティア（日本点字図書館）館佳子さん：「背伸びする必要はなくて、自分には今これしかできないけど、ここは頑張るってやるという姿勢でいいと思います。点訳も、ぜんぶ知識が頭に入っていなくても調べてできるんだったら、それでいいし。自分の点字のできる範囲の中で、できることをしていけばいいと思っているんですね」
- ② 点字図書館職員（日本ライトハウス情報文化センター）奥野真里さん：「いろいろな人に点字を知ってもらえたらいいなあと期待しています。点字が視覚障害者への理解のきっかけになってほしいと思っています。きっかけは点字でも、そこから視覚障害者が生活で困っていることや、工夫すればできることを知ってもらえるかもしれない」
- ③ 点字指導員（静岡県視覚障害者情報支援センター）黒崎よし乃さん：「指導員にもボランティアにも視覚障害者のための支えになるという意識を持つことが求められます。だから点字だけを利用者に強いてはいけないし、点字を読みたい人には点字、音声を聞きたい人には音声を、という選択肢が大切になります」
- ④ 点字新聞記者（「点字毎日」編集部）佐木理人さん：「テキストで書いて、音で聞いて、いいかなと思ったものでも、点字で読むと違うんですね。ことばが重なっていたり、意味が通っていないところに気づくんです。思考を深めるには、やっぱり点字なんです」
- ⑤ 視覚支援学校教諭（福島県立視覚支援学校教諭）渡邊寛子さん：「学力をつけるには点字がないと。音声では残らないんですね。感想文を書くのも、文字で読んで、書いてあるところに行をたどって、もどって、指で考える、と生徒たちも言うんですね」

(5) 点字を必要とする人びと

目の不自由な人は、仕事で、家庭で、大学生活や専門分野で、どのように点字を生かしているのか。関係者の方々へのインタビューによって構成されている。登場されるの方々のお名前と、点字についての思いの伝わる一言を引用させていただく。

- ① 弁護士・大胡田誠さん：^{おおごだ}「裁判に持っていく資料は点字が多いんですけど、相手に出す資料や相手の資料を読むときはパソコンが多いですね。裁判中に手元で内容を確認するのは点字が向いているので、ぼくにとって、点字は必須ですね」
- ② 主婦・点字校正者・伊藤聡子さん：^{ふさこ}「地元の広報は音声しかないんです。プレイヤーの電源を入れて、CDを機械に入れて、そこから探して検索します。けれど、点字のほうが見たいところをパラパラと見られる。読書でも、点字だと、『ん？何だっけ？今の？』となると、2～3行前からすぐ読み返しができます」
- ③ 県立図書館職員・佐藤聖一さん：^{せいいち}「ファイルやらCDやら自分でとっておくものがいろいろありますけど、それに点字でシールをつかって、何であるか書いておかないと、メチャクチャになってしまいますから。整理整頓に点字は便利ですよ」
- ④ ホルン奏者・大学生・坂田優咲さん：^{さかたゆうさく}「点訳ボランティアにいつも膨大な量の楽譜を点訳していただいているのですが、ぼくたちのために毎日相当な時間を費やしてくださっていることを思うと、本当に感謝の気持ちと、少し申し訳なさを感じる事があって。海外では国が点訳をおこない、職業としての体制のできているケースも多いようです。楽譜の分野に限らず、もっと点訳ボランティアが日の目を見てほしいと思います」
- ⑤ 県庁職員・鈴木祐花さん：^{ゆうか}「最初は点をなぞる練習から入って、これをやっていると本当に読めるようになるのかなと不安でした。でも、小学校1年生の夏休みくらいに短い文章を点字で読めたとき、本当にうれしかったですね。今まで自分で読むことはできず、絵本でもなんでも誰かに読んでもらっていたんですけど、初めて自分で読めたので、その喜びなのかなと思います」
- ⑥ 大学生・小椋汐里さん：^{おぐらしおり}「東日本大震災は、小学校の卒業式の1週間前でした。停電になって、泣いている低学年の子に本を読んであげたんですよ。点字なので暗くても読めるので。読んで、『ありがとう』といってもらえて。そんなときだけじゃないけど、みんな自分のできることをして助け合えるといいな、と思いました」

(6) 点字を生み出した人びと

点字をつくる、研究する、広める、など困難や苦勞にひるまず、目えない人のために一生を尽くした人たちが紹介されている。

目次：ルイ・ブライユは何をした人？／石川倉次は何をした人？／点字を広めた人びと①本間一夫／②岩橋武夫^{いわはしたけお}／③中村京太郎^{きょうたろう}／④鳥居篤治郎^{ひごきいち}／⑤肥後基一^{あさひろし}／⑥阿佐博／⑦木塚泰弘

本間、鳥居、肥後、阿佐、木塚の各氏は、歴代の日点委会長であった。このうち、鳥居、肥後、阿佐、木塚の各氏については、今回、日点委に執筆が委ねられた。この4氏は視覚障害の世界では著名な方々なのだが、こうした子ども向けの本に取り上げられることはほとんどないのではないだろうか。その意味で、私たちの先達を私たちの筆で紹介できたのは、光栄なことであった。歴代会長には、次のようなキャプション（見出し）が付いている。「本間一夫 視覚障害者の読書の自由を守るため点字図書館の基^{いしずえ}を築く」、「鳥居篤治郎 京都ライトハウスを創設し、視覚障害者の職業教育に力を尽くす」、「肥後基一 数多くの点字の本を出版し、多くの視覚障害者に点字をとどける」、「阿佐博 日本の点字の体系化につとめ、多くの点訳ボランティアを育てる」、「木塚泰弘 点字にたずさわる人びとを集め、日本の点字の統一を実現」。初代会長鳥居氏について、《鳥居が日ごろ語っていた「点字は読みよく、書きよく、わかりやく、をモットーに」は、今でも日本点字委員会の精神として引きつがれています》という一文を入れることができた。日本点字委員会の『ルイ・ブライユの生涯 天才の手法』が参考文献としてあげられている。

ユニークなシリーズが企画されたものと思う。特に「(4) 点字をささえる人」、「(5) 点字を必要とする人びと」については、類書が少なく、新鮮であった。監修のために目を通して、得るところが多かったと思う。各巻A4判、48ページ、3,500円+税。



2019年度研究協議会並びに第55回総会報告

2019年6月1日(土)～2日(日)、日本ライトハウス情報文化センターで、標記の協議会・総会を開催した。委員23名、事務局員4名、会友8名、オブザーバー等31名、計66名の出席があった。

総会

(1) 委員、事務局員の交代について

- ①盲人社会福祉界代表委員、山本令子氏（東京ヘレン・ケラー協会）から吉良厚子氏（同）に、加藤三保子氏（福島視覚情報サポートセンターにじ）から野々村好三氏（京都ライトハウス情報ステーション）に交代した。
- ②全国盲学校長会からの学識経験委員が、和内正也氏（横浜市立盲特別支援学校）から長尾一氏（同）に交代した。
- ③事務局員の畑中優二氏、畑中真弓氏が辞任し、鈴和代氏が承認された。

(2) 本年3月に『日本点字表記法2018年版』が発売された。これを受けて『日本点字表記法』改訂版編集委員会は解散した。

(3) 『数学・情報処理点字表記解説 2019年版』および『理科点字表記解説 2019年版』を2019年度中に発行する。点字教科書発行のために、文科省に関係資料を持参した。

(4) 『日本点字表記法2018年版』発行に伴う、日本点字委員会が過去に定めた他の規則類の扱いについて。

- ①『点字数学記号解説暫定改訂版』『点字理科記号解説暫定改訂版』および『試験問題の点字表記第2版』については、新版が出るまで断り書きを入れて対応する。
- ②「医学用語の点字表記について」も見直しを行う。

研究協議

- ①宮村健二委員より、「新3章と医学用語の切れ続き」の発表が行われた。

(要旨) 2拍以下の物の名前に4拍以下の名詞成分が後続する、構造を有する語は、意味上の考察において、要素間に文法的関係が生きていると認める場合は、要素

の独立性が強いとみて、要素間を区切る。また、要素間に文法的関係が生きるとは言いがたく、語全体の一体性（独立性）は優先すると認めるときはひと続きに書き表す。

②渡辺昭一委員より「新版「表記法」・「てびき」と外来語の切れ続きの検討」に基づいて発表があった。

(要旨)

- a. 複合名詞の切れ続きの基本方針として、「表記法」では、複合名詞の構成要素が独立性の強い意味のまとまりかどうか注目している。一方、「てびき」においては、複合名詞の構成要素については言及せず、内部に自立した意味のまとまりが二つ以上あるかどうかで判断することになる。
- b. その上で、「てびき」においては、外来語の切れ続きについて、語種と拍数・自立性の判断・アルファベットを含む複合語の詳細な規則等を定めている。また、カタカナ語で書き表された固有名詞の規則等も定めている。これらは、「表記法」の規定から1歩も2歩も踏み込んだ表現となっており、疑問点を多く含んでいる。

③数学・理科・情報処理記号専門委員会の加藤俊和委員長より「『数学・情報処理点字表記解説 2019年版』および『理科点字表記解説 2019年版』の内容について」に関して説明があった。

(要旨)『点字数学記号解説 暫定改訂版』『点字理科記号解説 暫定改訂版』の改訂として発行する。「情報処理用点字表記」は「2001年版」の巻末に掲載されていたものを「数学解説」に含めた。記号だけの解説ではないので「表記解説」とした。今後も改訂される可能性があるので、「2019年版」の書名とした。

④福井哲也委員より「日本におけるUEBの普及と「みんな悩んでるUEB問答集」編集の取り組み」の資料に基づいて発表があった。

(要旨)

- a. サピエ図書館のコンテンツにみるUEBの普及状況。2017年の下期で、UEBとEBAEのタイトル数は逆転し、総ページ数は、2018年の下期にUEBが大きく上回った。英語点字図書を手がける施設・団体数に変動はなく、UEBのコンテンツをアップロードする施設・団体が増加している。

UEBが導入されたから英語点訳をやらないということはない。逐次刊行物はUEBへの移行が100%。一方、登録図書は1,600タイトル中80タイトルしかないので高校3年以下のUEB世代にはサピエ図書館のほとんどの英語図書が活用しにくい状態にある。

- b. 「規則が分かれば点訳できる」わけではない。各地の点訳ボランティア、点字図書館、出版施設からの質問をまとめた「みんな悩んでるUEB問答集2017～18年まとめ」を作成した。(申込み先 ueb@lighthouse.or.jp 日本ライトハウス点字情報技術センター 福井哲也氏)

編集後記

「日本の点字 第44号」をお届けいたします。日本点字委員会では、2019年3月に『日本点字表記法 2018年版』を発売いたしました。同年6月の総会・研究協議会の中でも、この本についての意見交換が行われました。また「2018年版」についての勉強会を行っている地区研究会もあると伺っています。できたばかりの「2018年版」を、どうか皆様に育てていただければと思います。

その後、11月1日、『むつぼしの輝きを求めて－日本点字委員会50年のあゆみ 1966～2016－』を発行しました。日本点字委員会創立50年記念事業の一つとして企画されたものです。創立前後の時期は、いくつかの面で点字表記が不統一で、読者や学習者にとって不便が多かったようです。本書を読むと、盲学校、点字出版社、点字図書館の枠にとらわれない全国的な組織をつくって、表記統一のために努力し、それを今日の私たちに引き継いでくれた先達の息吹を感じ取ることができます。

また日点委では、『数学・情報処理点字表記解説 2019年版』を2020年3月に、『理科点字表記解説 2019年版』を同年6月に発売しました。

2020年は、日本点字制定130年に当たります。1990年(平2)11月1日を中心に、各施設・団体によって多くの日本点字制定100周年の行事が行われました。あれからもう30年がたったのですね。昨日のように思い起こされます。その中で筆者が印象に残っているのは、同日の夕刻、高田馬場のレストラン「アルファ」で開かれた「日本点字制定100周年記念パーティー」でした。日点委の主催で、参加者は90名でした。石川倉次さんの令孫3人を招待して、和やかで、心の高揚するような雰囲気の中で、記念日最後をしめくることができました。お孫さんたちのスピーチの中に、「子供の頃、おもちゃが壊れたりすると、すぐ直してくれるなど、祖父には器用な面がありました」と言っておられる方もいました。どのような「つて」でお呼びすることができたのか、当時日点委の末席を汚していた者としては(今でもそうですが)、感心したのを覚えています。

本書に掲載させていただいた原稿に即して、点字の歴史について考えてみたいと思います。

「点字と私」(水谷吉文さん)一点字との出会いは、それぞれにお持ちのことと思います。水谷さんの場合は、大学の図書館で見た日本地図だったとのこと。水谷さんの点字史の原風景ということになるのでしょうか。《『むつぼしの輝きを求めて—日本点字委員会50年のあゆみ 1996～2016』が上梓されました。創立40周年記念事業としてまとめられた『資料に見る点字表記法の変遷—慶応から平成まで』と、当山啓著・日本点字委員会編の『「日本点字表記法」の変遷』とあわせ見ることで、点字表記の変遷とともに、先人・先輩の方々のなみなみならぬ点字への執心をうかがい知ることができます。》と書いておられます。たしかに私達は、残された資料を通して、歴史の重みを学び、感じとることができます。

「ネットオークションと点字や視覚障害者の歴史」(岸博実さん)—岸さんは視覚障害者の歴史を研究しておられる方です。史料収集のために、ヤフオクやインターネット上にある国際的なオークションを使っておられるのですか。知りませんでした。

日本点字図書館・本間一夫さんの「点訳通信」のことも出てきます。今年は日本点字図書館創立80周年にあたります。日点は、日本点字制定50周年の、1940年(昭15)11月10日に開館したと聞いております。覚えやすいですね。

岸さんは、『視覚障害教育の源流をたどる—京都盲啞院モノがたり』(明石書店、2019)を上梓されました。1878年(明11)に開校した国内初の特別支援学校「京都盲啞院」(現・京都府立盲学校)の関係資料約3,000点が、国の重要文化財に指定されました。資料には、近代日本の障害者教育で先駆的な役割を果たした教材や文書の数々が含まれています。これら貴重な資料の調査研究に長年取り組んできた岸さんが、その解説を通じて特別支援教育の源流や社会参加の原点を探ろうとしています。本書を一読して、ぜひ「日本の点字」に岸さんのご研究の中から何か書いていただけないかとお願いし、原稿をいただいたものです。筆者は最初読ませていただいたとき、「故きを温ねる」点字や視覚障害者の歴史と、「モダンな」ネットオークションとの取り合わせがおもしろいと思いました。

「ふれる博物館」(伊藤宣真さん) —日点のふれる博物館でさまざまな企画展を開催しておられるのを知り、興味があったので、いつかその舞台裏など書いていただけないかと思っていました。今回実現するこどかできました。

この中にルイ・ブライユの生家の模型のことが出てきます。これは筆者も拝見しま

したが、よくできていると思いました。特に、屋根と東西の外壁をはずすことができ、各部屋を確認できるようになっていることが気に入りました。以前筆者が、マイケル・メラ著『ルイ・ブライユの生涯 天才の手法』（日本点字委員会、2012）を田中美織さん、水野由紀子さんと共訳していたとき、原文の表現をよりよく理解するために、ブライユの生家の様子を知りたいと思い、ブライユ博物館訪問記などをさがして読んだことがありました。当時、こんな模型があったら便利だったろうな、と思いました。

「点字毎日の点字表記について」（毎日新聞社「点字毎日」編集部）—「点字毎日」の読者の中には、年齢も点字歴もさまざまな方がおられると思います。どなたにも快適に読んでもらえる点字表記をめざして、今までの表記、新しい表記をともに大切に、紙面づくりをしておられる様子を拝見することができました。創刊100年の重みを感じます。

「国土社『手で読む 心でさわるやさしい点字』（全6巻）の監修を終えて」（金子昭）—全6巻のうち、筆者として、日点委に一部の執筆を委ねていただいた第6巻『点字を生み出した人びと』に思い出があります。特に、他の子供向けの本ではあまり紹介されることのない、鳥居篤治郎、肥後基一、阿佐博、木塚泰弘の各氏について執筆を担当させていただきました。私たちの先達を私たちの筆で紹介できたのは、光栄なことでした。

以上が歴史との関係で感じたことです。

「日本におけるUEBの普及について—サピエ図書館のコンテンツの状況から—」（福井哲也さん）—UEBの普及を、サピエのコンテンツの状況から見ようとする研究です。

「UEBの規則の改訂—コーテーション等の扱い」（日点委）によって最近の状況をお読みいただければと思います。

「日本の点字」の読者の中には、英語の点訳をしたり、日頃の読み書きに英語点字を利用しておられる方も多いと思います。この二つのUEB関連の記事がご参考になれば幸いです。

点字の各分野でお働きの方々のご活躍をお祈りします。

（金子昭）

日 本 の 点 字 第44号

2020年6月30日発行

発 行 日 本 点 字 委 員 会

〒169-8586 東京都新宿区高田馬場1-23-4

日本点字図書館内

電話 (03) 3209-0671

FAX (03) 3209-0672

振替口座 00100-1-42820

ホームページ <http://www.braille.jp/>
